

## 令和3年度 府中市水切りモニタリング 実施報告

### <目的>

令和2年度府中市のごみ・資源物の量は約60,016トンであり、そのうち燃やすごみは約37,680トンと、半分以上となっている。また、令和2年の組成分析では燃やすごみの内の約43%は生ごみであり、生ごみには水分が含まれていることから、水切りによる減量効果を検証するため、行うものとする。また、府中市地域ごみ対策推進員の活動の活発化、アンケートを通じて実施者の意見やアイデアを、今後のごみ減量、生ごみの水切りの啓発に活用していくものとする。

### <実施内容>

府中市地域ごみ対策推進員を対象に、家庭から出た一日の生ごみを、市が配布した水切りネットで、水切りを行い、その減少量を記録する。また、実施後、記録とともにアンケートを提出する。

### <期間>

令和4年1月～2月の間に10日分行う。

### <結果> (小数点第二位は四捨五入)

#### ①回答率

協力申込者	152名
提出者	141名
回答率	92.8%

141名のうち記録のみ2名、アンケートのみ3名、生ごみ処理機による記録2名

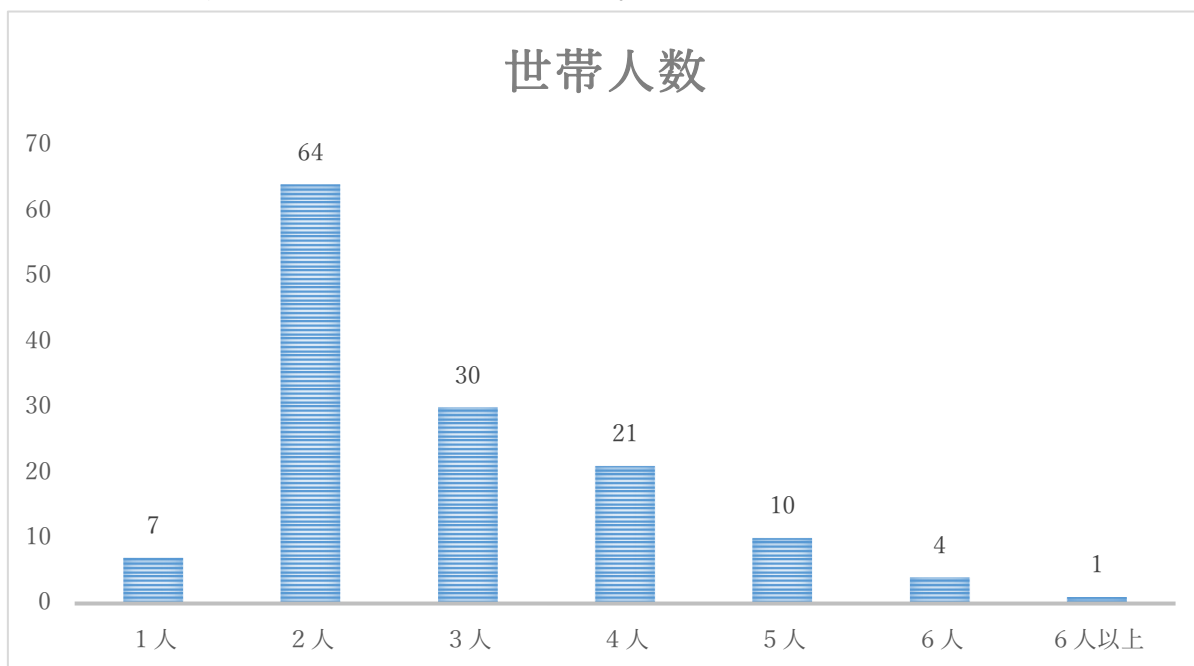
#### ②データ

	総量 (136世帯から出た10日分の生ごみの量)	1世帯1日当たり (平均)
生ごみ量	499kg	366.9g
減少量	46.3kg	34g
減少率	9.3%	9.3%

### ③アンケート

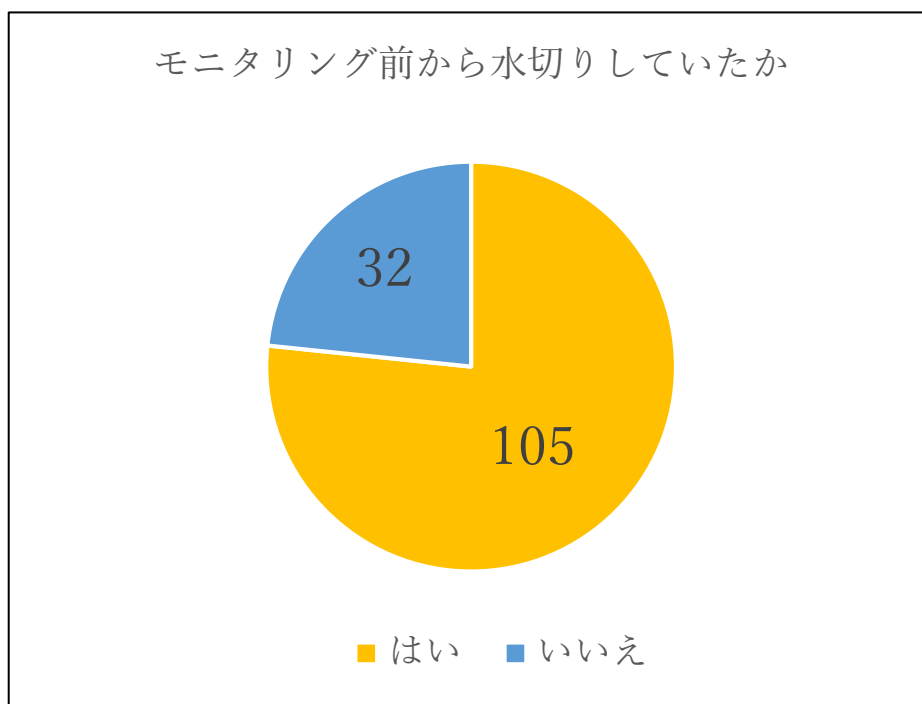
#### ・世帯人数

モニタリング参加者は、比較的高齢者の世帯が多かったが、世帯人数は2人世帯が一番多く、次いで3人世帯が多かった。



#### ・モニタリング前から、水切りしていたか

137人中、105人がはいと答え、いいえが32人と、約76,6%がモニタリング前に水切りをしていた。

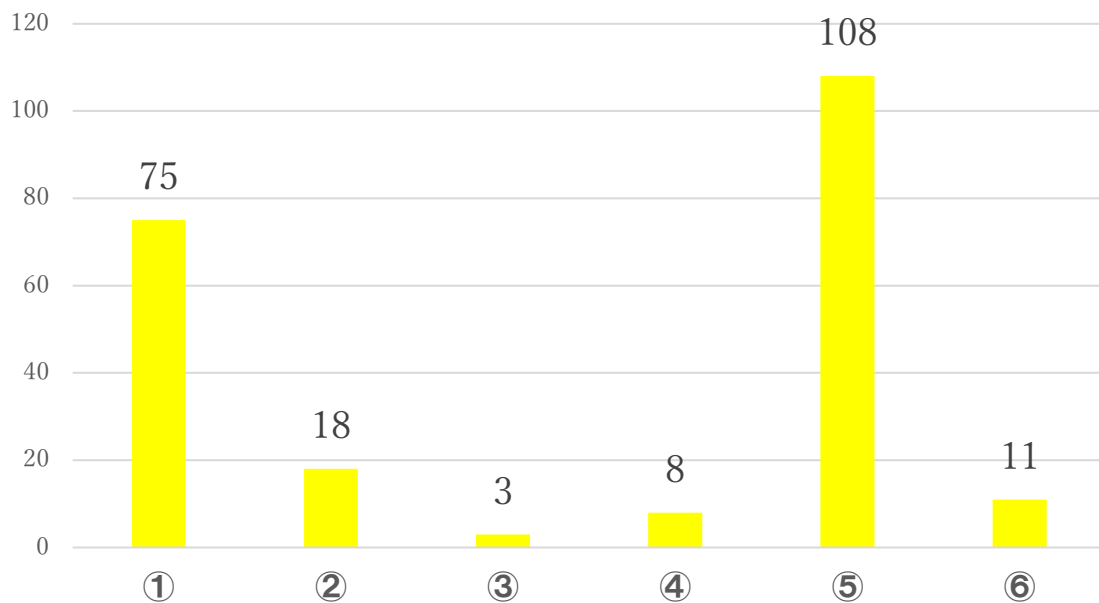


・選択式（複数回答可）

①-ごみが減った、軽くなったと感じた	75人
②-嫌なにおいが減った	18人
③-虫が湧きづらくなった	3人
④-水切りネットを買いたいと思った	8人
⑤-今後も水切りをしようと思った	108人
⑥-該当なし	11人

水切りをして、あてはまるものに○をしてください。

（複数回答可）



・多かった感想やアイデア

水切りできる生ごみとできない生ごみを事前に分別する	22人
手ではなく、道具を用いて水を切る	14人
水切りネットが小さい	10人
今よりしっかり水切りをしていきたい	9人

果物や野菜の皮は元々水分が少ないので、あらかじめ水切りする三角コーナーには入れずに、水が染み込むのを防ぐため分けた方がよいということで、「水切りできる生ごみとできない生ごみを事前に分別する」という意見が最も多かった。

また、素手で水を切るのに抵抗があるということから、手袋や水切り容器などを使用した方がよいということで、「手ではなく、道具を用いて水を切る」という意見が次いで多かった。

<調査結果>

水切りにより、1世帯1日当たり約34gの減量という結果になった。

府中市全体の世帯数は12万7,754世帯（令和4年3月1日現在）であり、アンケート結果によると、水切りしていない世帯が約23.4%であることから、府中市全体でみると、2万9,894世帯が水切りをしていないと想定できる。

今回のデータを踏まえて、水切りをしていない2万9,894世帯が水切りを行えば、1日で約1,016kg減量することができる。

このことから、水切りをしていない世帯への啓発を更に行っていき、水切りを抵抗なく、当たり前に行えるような方法を検討していく必要がある。